

WASANN

～かわら版～

NPO法人 和算を普及する会 会報 vol.1

【1】第9回 算額をつくろうコンクールを終えて

NPO法人 和算を普及する会 理事長 佐藤健一

NPO法人和算を普及する会の母体である「和算研究所」が数学の問題を考えるコンクールを始めたのは今から9年前である。それまでは算額の問題を与えて解くコンクールを考えていたのであるが、作ることに切り替えたのである。与えられた問題を解くこともよいのであるが、子どもたちが自分の考えで自由に問題を作ることの方が、作る生徒にとって楽しいはずであると、担当者たちの意見が一致したからである。江戸時代に大流行した算額の奉納という風習は自分たちで問題を作ったからである。その伝統を現代の数学教育に生かそうと現代の記述による方法で始めた。最初の年でも100点近く応募があり、それなりの満足感があった。

2年目、3年目と少しずつではあるが応募者が増え、今年は500の大台を突破するまでになった。東北地方から中国地方までの学校が応募していたのであるが、今年はアメリカまでそれが広がり、しかも全体として問題に工夫が見られる。今までは金賞・銀賞・銅賞、特別賞、奨励賞としていた表彰を、金賞については「関孝和賞」、銀賞については「建部賢弘賞」、銅賞については、その内容によって「吉田光由賞」と「下平和夫賞」というように和算家や和算の研究に功績のあった学者の名前を添えることにした。

審査の結果についてはNPO法人和算を普及する会（略称NPO法人和算）のホームページに掲載していく予定であり、この冊子にも一部掲載している。応募者の感想文を読むと、生き生きとして問題を作っている姿が浮かびあがる。毎年多くの生徒に体験してほしいものであるというのが我々の感想である。

今までも生徒の作品と一緒に指導している先生の作品もあったが、小・中・高等学校の生徒ばかりではなく、生徒のお母さんの作品も毎年でてくる。それも非常に優れたもので、これからも増えることを期待している。よい作品が大分集まったことから、これらを本にしようという動きも出てきた。随分昔の「赤い鳥」の歌集のようなものが出来るのかもしれない。今年は作品の内の何点かを算額にして奉納することになっている。すでに奉納を引き受けて頂いている神社もあり、実現すれば、数学教育に活気がでるだろう。



（『第10回 和算にまなぶ』冊子の表紙）



NPO WASAN

[2] 第9回 算額をつくろうコンクール 入賞者紹介

● 審査委員長：杉山吉茂（東京学芸大学名誉教授）

● 応募総数：592点

【金賞・関孝和賞】

大下 里奈子 広島県 広島大学附属東雲中学校
 辻 賢太郎 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 水野 文裕 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 床爪 佑司 東京都 早稲田中学校

【銀賞・建部賢弘賞】

田中 栄行 岐阜県 岐阜市立加納中学校
 遊長 沙織 東京都 明治大学付属中野八王子
 高等学校
 澤本 世絵羅 東京都 十文字中学校
 大岸 誠人 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 角田 翔太郎 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 余語 孝夫 東京都 筑波大学附属駒場中学校

【銅賞・吉田光由賞】

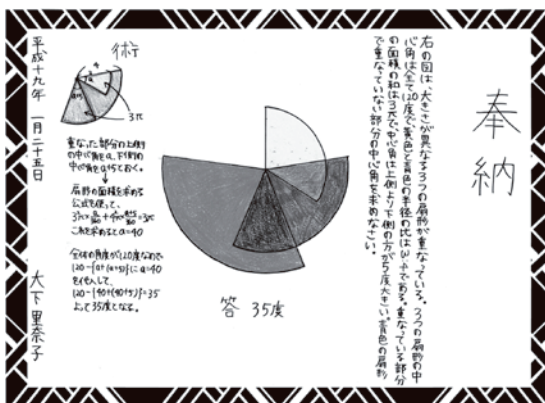
国吉 梨紗 山口県 山口大学教育学部附属
 山口中学校
 海野 雄紀 東京都 中野区立桃丘小学校
 黒田 沙希 東京都 学習院女子中等科
 清水 昌吾 東京都 明治大学付属中野八王子
 高等学校
 手塚 俊樹 神奈川県 桐蔭学園中等教育学校
 白井 源紀 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 笠井 浩平 東京都 慶應義塾中等部
 Miles Wells U.S.A Exploris Middle School

【銅賞・下平和夫賞】

玉谷 桜季子 東京都 聖心女子学院高等科
 山下 祥平 広島県 広島大学附属東雲中学校
 宮内 秀聡 茨城県 茨城中学校
 脇坂 佳史 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 河合 隼雄 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 町田 裕樹 東京都 慶應義塾普通部

【特別賞】

長田 恒子 東京都 国分寺市



〔金賞・関孝和賞 受賞作品〕

【奨励賞】

本多 裕美 広島県 広島大学附属東雲中学校
 島中 杏理 兵庫県 県立宝塚東高等学校
 渋谷 滄人 福井県 福井大学教育地域科学部
 附属中学校
 日比野 和哉 岐阜県 岐阜市立加納中学校
 伏見 香蓮 東京都 豊島岡女子学園中学校
 平泉 香織 東京都 聖心女子学院高等科
 秋元 英里 東京都 十文字中学校
 岡田 志穂 東京都 十文字中学校
 薦田 繁 東京都 早稲田中学校
 堀江 拓朗 東京都 早稲田中学校
 今井 誠 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 加藤 裕大 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 北川 清宏 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 佐藤 薫 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 竹田 将人 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 寺川 文英 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 長原 慧 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 保坂 泰貴 東京都 筑波大学附属駒場中学校
 伊藤 温海 茨城県 茨城中学校
 後藤 文香 山形県 山形大学附属中学校
 佐藤 諒 山形県 山形大学附属中学校

§ 応募者感想アンケートより

いつも問題を解く方である僕が初めて問題を作る方にまわってみて、色々大変なことがあるんだなあと思いました。適当に作ったのではとても分かりづらい問題になり、かといって簡単にしすぎるのもいけない。その真ん中あたりのところになる問題を作るのにとても時間がかかり先生は色々大変なんだなあと思いました。(Y)

[3] 第10回 和算にまなぶ 講演会内容のご紹介

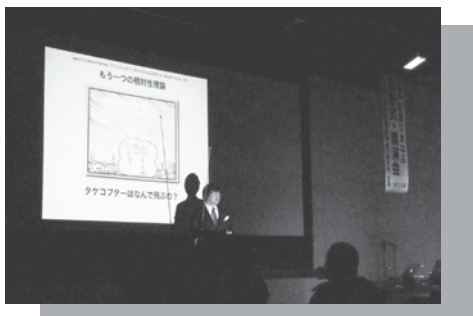
●日時： 3月11日（日） ●会場： 東京都江戸東京博物館 会議室
（司会） 牧野正博・田辺寿美枝

① 魅惑の数学の世界

桜井 進
(sakurAi
Science
Factory)



算額をつくらうコンクール優秀作品の素晴らしさを解説していただき、さらに魔方陣研究者 阿部楽方氏訪問記、そして、円周率を求め続けた数学（和算）の巨人たちの紹介、 e さん π さんのおもしろい関係など、素晴らしい映像と音楽を使って、「魅惑の数学の世界」を熱く語っていただきました。



② 和算つれづれ

佐藤 健一
(和算研究所
理事長)



和算の歴史に関する書物、和算家の業績に関する書物、学校教育で活用できる書物と分類して、和算に関わる書物のご紹介をいただきました。そこでは、「生活のための数学」から学問化していったこともご説明いただきました。



③ 2つの『算法少女』をめぐるって

遠藤 寛子
(作家)



『算法少女』の著者である遠藤先生が、執筆に至るプロセスとともに、和算書『算法少女』との関連をお話しくれました。執筆された「物語『算法少女』」は、和算書『算法少女』の1視点から構成して作品になっていることや、少女の関わった和算書『算法少女』をはじめとする和算書に、魅力があふれていることを熱く語っていただきました。

④ 建部賢弘の数学

森本 光生
(国際基督教大学
副学長)



建部賢弘は自身の著書『綴術算経』で円周率を42桁まで正確に求めています。彼の考えた弧の長さを矢（弧の高さ）の無限級数で表示する式や、その数値解析的な導き方の工夫についてお話しいただきました。

【4】事務局からのお知らせのご案内

平成18年度 活動報告

《 ①数学教育事業 》

○ 第9回 算額をつくろうコンクール

592点の応募から、平成19年2月10～12日に審査を行って、下記の入選者を選考し平成19年3月11日に東京都江戸東京博物館にて表彰式を行いました。（詳細は2頁）

金賞・関孝和賞	4名	銀賞・建部賢弘賞	6名
銅賞・吉田光由賞	8名	銅賞・下平和夫賞	6名
特別賞	1名	奨励賞	21名

《 ②和算普及啓発事業 》

- ・全国算数・数学教育研究（東京）大会（東京学芸大学）平成18年7月31日のワークショップで、和算の紹介を行いました。
- ・「江戸に学ぶー和算の世界展」（横浜市／有隣堂書店）平成18年8月27日に和算書、関連資料の展示、講演と、算木・数学遊戯の体験実習等を行いました。
- ・和算入門講座（東京都／清泉女子大学）平成18年11月18日に和算の講演会を行いました。
- ・「和算にまなぶ」（第10回）平成19年3月11日に東京都江戸東京博物館で、講演会を行いました。（詳細は3頁）

《 ③和算関連冊子刊行事業 》

『勘者御伽双紙 上巻』を刊行しました。



平成19年度 活動予定

- * 「算額をつくろうコンクール」（第10回）
- * 算数・数学の教科書における取り上げ方の実態調査
- * 機関誌の発行、和算啓発の講演会や講習会の実施。
- * 「和算にまなぶ」（第11回）の実施
- * 『勘者御伽双紙 中巻』の刊行

～ 講座開催のご案内 ～

- * 第3回 全国和算研究大会
（平成19年8月18～19日 於：松山）
- * 和算入門講座 平成19年10月 予定



（H18.8.27有隣堂書店での体験実習の風景）

NPO法人和算 会員募集中！

～ 年会費が変更になりました ～

現在、和算を普及する会では、普及活動を拡大していくためにも会員を募集しています。お知り合いや同じ職場内で、和算に関心のある方（ない方でも）にお声掛けいただき、入会を希望される方を事務局まで、FAXかメールにてお知らせください。振込用紙をお送りいたします。

今年度より、一般会員の年会費は3,000円となりました。

また、学校会員（年会費5,000円）も受付けています。お問合せは下記事務局まで。

編集後記

10回目の「算額をつくろうコンクール」を迎える今年、ようやく会報を発行することができました。発行準備にあたり、多くの皆様のお力添えを賜りましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

【発行】NPO法人 和算を普及する会 事務局 〒114-0005 東京都北区栄町48-23 東書文庫ビル1階

TEL/FAX：03-3927-9330 E-Mail：wasan@wasan.org <http://www.wasan.org/>